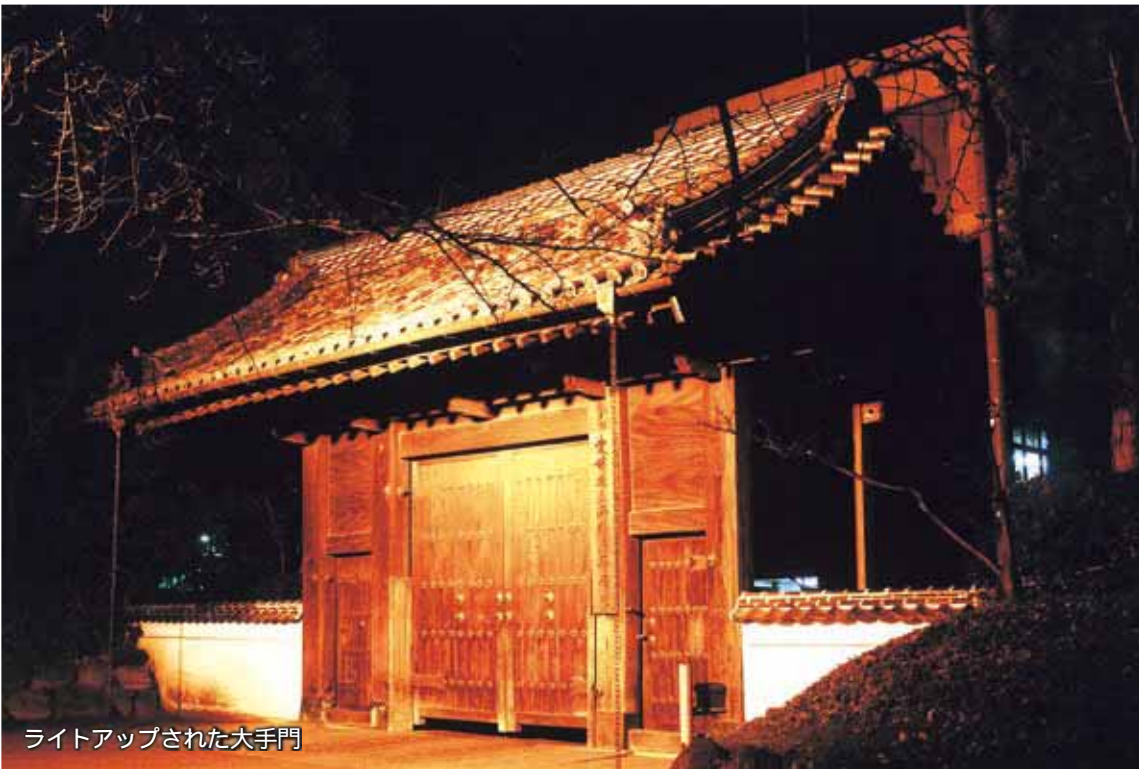




発行所  
道前会

愛媛県西条市明屋敷 234  
愛媛県立西条高校内  
電話・FAX 0897-53-2192



ライトアップされた大手門

ごあいさつ



第8代会長  
村上 俊行  
(58回)

梅雨の候となりました。会員の皆様には益々ご清栄のことと拝察いたします。

本年も役員の皆様、会員の皆様のご協力を頂いて、会報をお送りできますこと大変うれしく、感謝申し上げます。

また、会の運営および活動につきましては、会員の皆様の物心両面にわたる多大のご支援とご協力を、日頃より賜っておりますお陰と厚く御礼申し上げます。

昨年は東日本大震災で、東日本の多くの方々が被災され、行政の遅れもあり復興に先が見えない状況ですが、私たちの会員についても多くは未情報の状況であり、非力を痛感しております。その中で卒業五十年でまとまった同期の会では、支援活動が出来たとの情報も頂き、母校卒業式への参加企画の価値を認識しました。

昨年開設しました道前会ホームページは如何でしょうか。多くのアクセスを頂き有難うございます。出来るだけ早く新しい情報を載せるよう心掛けています。皆様

からの情報をお待ちいたしますと共に、アドバイスもお待ちいたします。

11月には総会を開催いたしました。講師三木秋男先生の「わが国の中世から以降、教育者として第一人者と言われる細井平洲を世に出したのは西条藩であり、藩士から塾頭も幾人か出るほど教育熱心な西条藩」その流れが擇善堂へそして西条中学へ」と改めて身の引き締まる気持で講演を拝聴しました。

去る三月一日の卒業式には六十二回卒業生約百名参加下さいました。生徒の態度も素晴らしく多くの先輩の参列を期待している雰囲気も感じられ、この形が定着してきたと思われました。また六十二回生からは多額のご芳志を頂きました。有難うございました。会費につきましては、広告のご協力やご寄付等合わせて、百二十周年事業に向けた準備金がやっと残せるようになりました。有難うございます。生徒の教室のエアコンの更新、体育館の改築に伴う備品等相当の経費が必要になります。生徒が充実して学べる学校環境づくりに、役員一同頑張っております。会への相変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。会員の皆様のご健勝ご活躍をお祈りいたします。

理数科の取組と課題



第34代校長  
藤岡 典夫  
(72回)

本校理数科は、昭和43年4月、科学技術の基礎をなす理科・数学教育の振興の要請に於いて誕生しました。以来、1,600名以上の優秀な人材を輩出し、各地、各界での活躍が顕著です。

今回は、道前会会員の皆様に、理数科の取組を紹介するとともに、抱えている課題についてお知らせしたいと思います。

一 平成23年度の理数科

及び物理部の取組

- (一) 事業所との連携
  - ア (株)四国電力
  - イ (株)アドバンテック
  - ウ (株)エンジンア
  - エ (株)クリーンメカニカル
- (二) 西条市との連携
  - ア 西条クール・
  - アースプロジェクト現地視察
- (三) 大学・研究機関との連携
  - ア 愛媛大学による自然放射線

セミナー開催

総合科学博物館理系女子会講演会参加

ウ 東海大学湘南キャンパスツアーの実施

エ 愛媛大学未来の科学者養成講座参加

(四) 各種コンテスト等への参加

ア 全国物理チャレンジ出場

イ 日本学生科学賞県大会優秀賞受賞

ウ 県教育総合センターえひめ高校生サイエンスチャレンジ参加

エ 中国・四国・九州地区理科課題研究発表大会への参加

(五) 生徒による出前授業等

ア 「四電サイエンスフェスティバル」にて科学実験指導

イ 「夏休み・子どもチャレンジフェスティバル」で授業

ウ 県総合科学博物館体験イベント協力

エ 市内中学校へ出向いての実験・体験発表

二 現状と課題

ここ数年、理数科の人気は低迷し、大幅な定員割れが続いております。定員40名に対し、入学者は

平成21年22名、平成22年31名、平成23年29名となっております。昨年度は、人気回復を図るべく、前述のような取組を行うとともに、紹介リー

フレットを作成して広報活動にも精力的に努めてまいりました。しかしながら、本年度も、3月2日時点での志願者は19名と大きく定員割

れとなつてしまいました。その原因としては、いわゆる理数離れ、市内上位層の生徒の市外の学校への流出、中3段階で文系・理系の進路を決定することの難しさなどが考えられますが、いずれにしても、一旦流れ始めた受検生の動きを変えるのは予想以上に難しいことを痛感しています。

本年度は、昨年度の反省を生かし、生き残りと復活をかけて、中学生が是非とも入学したくなるような魅力ある理科づくりをいかななくてはなりません。そのためしっかりとした取組を行うとともに、広報活動にも力を入れるべく、さまざまな計画を実施に移しつつあるところです。幸い西条市は、「チーム西条」を合い言葉に、「フィールド大学構想」を推進し、大学等との教育・研究交流を通じて、地域課題の解決や地域の活性化等に取り組んでおられます。本校は、その

西条市のネットワークを活用させていただいて、体験的な学習活動をさらに充実させ、理数科の活性化を図りたいと考えています。

加えて、全国に広がる37,000名を超える道前会会員の皆様のネットワークは、西条市のネットワークに勝るとも劣らないすばらしいものと考えております。皆様には、西条高校理数科の置かれている現状を御理解いただき、さらなる御協力・御支援を賜りますようお願いいたします。

部活動状況

部活動に加入している生徒は、全校生徒の86%余りで、本校の校訓の一つである文武両道を多くの生徒が体現し、有意義な高校生活を送っています。

成績ですが、10部門もの全国大会に、団体や個人として参加するなど、本年度も西条高校の活躍が見られました。

運動部においては、サッカー部を除くすべての部が県高校総合体育大会に出場、総勢237名の参加になりました。主な結果は、ソフトボール部が2位(昨年まで2年連続優勝)、ソフトテニス部女子団体2位、陸上部男子2種目優勝、バレーボール部女子が3位で、四

国高校総体の出場権を獲得しました。それ以外にも四国高校総体に出場した部は、陸上の前記以外の3種目、ソフトテニス部女子個人3ペア、水泳3種目がありました。

野球部は夏の大会3回戦で敗れましたが、悔しさをバネに練習に励んでおり、次回は一層の結果を残してくれるものと期待しています。

文化部では、合唱部が本年度も活躍し、全国大会、四国大会に出場しました。さらに、事務機械部が全国大会、ワープロ部が四国大会と、商業部の活躍もめざましいものがありました。また、県高校総合文化祭には68名が参加して、それぞれの分野で発表しました。なお、本年度も全国大会に出場

特活課長 内田 宗志

するにあたり、道前会よりその都度御芳志を賜りました。誠にありがとうございました。

また、道前会にも協賛していただきました恒例の芸術文化発表会も、昨年8月12日西条総合文化会館で多くの鑑賞者のもと、美術部・書道部・写真部が展示発表、ダンス部・日本音楽部・合唱部・吹奏楽部がステージ発表し、感動のうちに15回目を終えることができました。今年も8月14日に実施する予定です。文化活動の一端を御覧いただき、励ましをいただければ幸いです。

今後とも、暖かい御声援をいただきますようお願い申し上げます。

全国大会出場

〔体育関係〕

全国高等学校総合体育大会

(秋田・岩手県 23年8月)

・ソフトテニス部女子個人 2名

・陸上競技部男子

やり投げ

4 x 1000mリレー

4 x 400mリレー

国民体育大会

(山口県 23年10月)

・ソフトボール部 4名 3位

全国高等学校合同チーム

ラグビーフットボール大会

(長野県 23年7月)

・ラグビー部 1名

〔文化関係〕

全国高等学校

珠算・電卓競技大会

(東京都 23年8月)

・事務機械部 1名

全国高等学校総合文化祭

(福島県 23年8月)

・吟詠剣誌舞部門 1名

全国物理コンテスト

(茨城県 23年8月)

・男子1名

日本生物学オリンピック

(広島県 23年8月)

・女子1名

全国商業高等学校

英語スピーチコンテスト

(東京都 24年1月)

・女子1名

声楽アンサンブル

コンテスト全国大会

(福島県 24年3月)

・合唱部



進路状況

平成 23 年度 卒業生

平成 24 年 3 月 31 日現在

進路課長 大谷 修一

		大 学				準大学	短 大			専修 各種	就職	その他	合計
		国立	公立	私立	計		国公立	私立	計				
普通科	男	34	8	44	86	0	0	2	2	12	2	3	105
	女	40	23	31	94	0	1	7	8	21	1	2	126
理数科	男	5	0	2	7	0	0	0	0	10	0	0	17
	女	0	1	3	4	0	0	0	0	1	0	0	5
商業科	男	0	0	7	7	0	0	0	0	2	3	0	12
	女	1	1	4	6	0	0	3	3	5	14	0	28
過年度 卒業生	男	5	0	2	7	0	0	0	0	2	0	0	9
	女	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	0	3
小 計	男	44	8	55	107	0	0	2	2	26	5	3	143
	女	41	25	40	106	0	1	10	11	28	15	2	162
合 計		85	33	95	213	0	1	12	13	54	20	5	305

全 体		大 学				準大学	短 大			専修 各種	就職	その他	合計
		国立	公立	私立	計		国公立	私立	計				
普通科	男	35	10	117	162	0	0	4	4	14	2	3	185
	女	41	25	90	156	0	2	11	13	35	1	2	207
理数科	男	5	1	14	20	0	0	0	0	10	0	0	30
	女	1	1	8	10	0	0	0	0	2	0	0	12
商業科	男	0	0	8	8	0	0	0	0	2	3	0	13
	女	1	1	7	9	0	0	3	3	5	14	0	31
過年度 卒業生	男	5	0	10	15	0	0	0	0	2	0	0	17
	女	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	0	3
小 計	男	45	11	149	205	0	0	4	4	28	5	3	245
	女	43	27	107	177	0	2	14	16	43	15	2	253
合 計		88	38	256	382	0	2	18	20	71	20	5	498

新しい年度、平成二十四年度が始まりました。新三年生は六・三・三の十二年間の総決算を、西条高校最高学年とし、自分の進路実現のため努力しています。

さて、昨年度の西条高校生の進学状況ですが、国公立大学合格現役生へ人数、百二十一名に達しました。内容においても、東北大学（医）、名古屋大学三名、大阪大学、東京外国語大学、横浜国立大学、奈良女子大学、神戸大学など難関大学を多数の現役生が突破しました。医学部医学科においても二名、また、岡山大学は八名と健闘しました。地元愛媛大学には、二十四名の生徒が見事に合格しました。商業科においても、国公立大学二名が合格したのをはじめ、私立大学十五名、私立短大三名、専門学校七名となり、二十三名が進学しました。また就職は、例年より求人が少なく苦労しましたが、二十名が就職することができました。さらに既卒生においても、愛媛大学医学部医学科と健闘いたしました。

ここで、全国的な入試状況の分析をしてみます。

まず、国公立大学ですが、国立大学の志願者数はわずかに減少しています。これは、受験人口の減少や、後期募集の廃止・縮小の影響が考えられます。しかしながらこれからは、国公立大学や難関大学、地元志向の高まりがあると思われる。何故ならば、「大学全入時代」から「大学淘汰の時代」を迎えて、国公立大学の人気や合格レベルなど大学間の較差は拡大して二極化が進んでいるからです。また、東日本大震災や欧州の金融危機など最近の厳しい経済状況や大学卒業生の就職状況の影響で、学費が安価という経済的側

面や卒業後の就職に有利といった理由から、国公立大、特に難関大志向を強く持つ受験生が増加すると思われる。文理別では理系の人気が高く、私立大との学費や環境との差がより強調される状況にもなっています。さらに、この厳しい経済環境は、特に地方での深刻度を増しています。したがって、経済的にどうしても都市部の私立大への進学を断念せざるを得ない受験生も増加しており、少子化による保護者の意識変化も加わって地元国公立大への志向が強まっています。

私立大学においては、国公立大学と同様、志願者数は減少しています。系統別志願状況を見ると、ほぼ国公立大と同様に文低理高となっていますが、国公立大と異なり、社会学系人気が増加しているのが目立ちます。また、外国語学系が人気を集めています。理系では工学系と並んで募集人員の多い理学系が人気となっています。前年度の同時期と比較し大幅アップは、基礎研究がさらに強まっているためです。資格に直結する系統の保健衛生学系、医学系、歯学系、薬学系も増加しています。また、近年人気を集めている農・水産学系はほぼ前年度並ですが、人気は落ち着いてきています。

これからの西条高校の進路指導は、受験情報を早くキャッチし、受験生が希望通りの進路に付けるようさらなる努力をして行かなければいけないと思っています。

大手門を巣立ってゆかれた数多くの諸先輩の皆様と同様に、勉強やさまざまな試験に打ち勝った成果が今まさに現れようとしております。

これからも母校の進路指導に御理解をいただき、愛すべき後輩達への温かい御指導・御支援を賜り、本校がますます発展していければ幸いかと存じます。今後ともよろしくお願いたします。

# 随想



## 茫々七十年（入学当初の巻）

（比類なき校章と

白線一本の帽子にあこがれて）

青野 義明（48回）



私が幼い頃よりの憧れ県立西条中学に入学したのは、太平洋戦争勃発間もない昭和十七年の春であった。私達の入学式は、忘れもしない昭和十七年四月八日。天気は良く、お矢来の数本の満開の桜が散りかけていた時分であった。

入学により初めてあの頑丈な大手門をくぐり、見上げた瞬間感じた、

遠い昔にタイムスリップしたような気分を鮮明に覚えている。門の左側に沿って、高さ四五米位の土手があり、その上には天を突く松の巨木三本が大きく堀の方に傾いて覆い被さっている光景は、なんとなく時代劇に出る景色であった。その松の木の一部は現在、西条市こども園、児童館内に保存されている。当時の校舎は全部木造で、特に教職員室は一段と燻んで油臭く感じた。

当時太平洋戦争たけなわで、私は家族とも相談し、昭和十九年十二月呉の江田島に於いて海軍兵学校を受験し翌二十年三月、長崎県針尾海軍兵学校予科生徒として入校した。数えの十五歳であった。そして昭和二十年の八月の終戦時には山口県防府分校を転々とした。

その頃の西条中学は入校が大変難しく、私の部落からは過去に西中を卒業した者は一名もいなかった。私の家は現在の文化会館近くにあり、通学時間になると大町地区、神戸地区からの学生が四人、五人と団体を組んで前を通っていた。

当時の光景たるや現在とは全く隔世の感があり、先ず第一に男女の学生が一緒に通学すること絶対にありませんでした。服装は、上衣は主としてカーキ色の麻糸のこよりを織った物で靴は背から斜めに大きく腰まで下げ、片方の腰に日本タオルをぶら下げ、靴を履いている者は一人も

なく、大部分は下駄又は草履で、中にはわらじや裸足で登校する者もあり今から考えると全く嘘の様な状況であった。

西中生の心の拠りどころとなったのは、当時全員被っていた、あの独特で他校にその例を見ない高尚な校章と二本の白線を巻いた学生帽である。入学前の私は、あの帽子をどんなにか被りたいと思った事か。八十才を越した今でもあの帽子をかぶり市中を闊歩したい気にかられる。

昭和初め生れの私達は戦争につぐ戦争で、勉強より勤労奉仕や軍隊の各学校への転出に追われ、そして終戦を迎え、教育改革ですべてが一変した。同じ昭和十七年の春に入学しても四学年で卒業した者が第四十七回卒、五学年で卒業した者が、第四十八回卒と二つに分かれるという奇妙な同級となった。

今や、八十有余才になって西中入學より現在迄を思い浮べると、やせ我慢でなく本当に私達は、種々な事が体験出来た良き時代を過して来た心から歎んでいる次第です。

『西条』という素晴らしい風土と歴史と共に『石鎚山』を常に仰ぎ、徳川家の縁族の所有する陣屋を学庭にするという歴史と伝統に裏打ちされた西条中学（高校）で学ばせて戴いた事に、これ以上の誇りと歎びはない。

現在の学生達への希望は・・・あの荘厳なまでに美しい校章に、二本の白線の巻いた学生帽をしつかり被った心算で、常に姿勢を正しく胸を張って有意義で正々堂々たる高校

生活を送って戴きたいの一つに尽きる。

我が母校  
「西条高校」よ 永遠なれ。

## 絆に感謝

佐藤 由美子（58回）



いつの間にか72才になりました。気持ちには50年前の学生の時と同じで進歩もしていません。私は58回卒業生で、所沢市に住んでいます。この学年は40才頃から隔年ごとに同期会を開催しています。会場は東京、名古屋、大阪、岡山、愛媛等と全国にまたがっています。私もできるだけ参加し親睦を深めています。西条の地元には、道前会長の村上俊行さん始め、お世話して下さる方がいらっしやるので心から感謝しています。案内状の発送、ホテルの手配、名簿作成、日程調整など大変なご苦労だと思えます。

私の夫は、浅草生まれ浅草育ちの江戸っ子です。私が同期会に再々出席するので、そんなに嬉しいの、楽しいのと申します。貴方も一緒に参加してみればと申しますと、部外者なのにと遠慮していましたが、思い切って夫婦同伴で、3年前に出席させて戴きました。会の皆さん、とても温かく迎えて下さり、夫も自然に溶け込む事ができ、私よりも同級生の感じて楽しませて戴きました。君の学年は一回の集合で百人近い同

# 愛媛銀行

本店：松山市勝山町2丁目1番地

TEL (089) 933-1111

ホームページ <http://www.himegin.co.jp/>

級生が集まるって、珍しいね。本当に素晴らしい学年だね。君が楽しみに出かける気持ちが理解できたよ。今は、同伴で出席させて戴いてます。昨年も地元西条祭りの日に開催され、勿論夫婦同伴で出席致しました。

夫、勝彦は、西条市立西中学校の校歌を50年前（昭和36年）に作曲（作詩・藤井冬海氏）しており、同校から校歌制定五十周年行事にご招待戴き参加させて頂きました。夫は50年前の学生時代に音楽担当の実習生として、初めて西中学校を訪れた縁でした。その日は奇しくも昨年の同期会の前日の10月13日でした。

次いで翌日に地元西条のホテルで同期会開催、二泊三日で充分西条祭りを堪能しました。まさに優雅絢爛、お祭りに熱中する西条っ子に圧倒されました。

夫は浅草の三社さまのお祭りを生まれた時から楽しんでいますが、西条祭りは初めてでした。私の実家の人達のお祭りの前日から動き、炊き出しに出かけ



る女性、「御花」をいくつも用意する人、集会場に食物を運ぶ人、地域全体いや西条市全体の人達が目的に向かつて行動している事に深く感動し、「昔の日本の祭りの原点と日本人の生き方を見た気がする。今の日本の政治、人の心、思い遣りが、今の西条のようだったらなあ…」と夫は呟いていました。

世界を驚愕させた、あの東日本大震災、福島第一原発事故発生から一年が経ちました。復興を目指して全国各地からの支援の絆、西条っ子の祭りへの思い入れの絆、そして、私達同期の仲間への友情の絆に感謝致します。有難うございます。

**卒業五〇年、母校の卒業式に参列して**  
矢章 範子（62回）

石鎚山の峰は未だ白く、遅咲きの梅もようやくほころび始めた三月一日、卒業五十周年の節目として、母校の第一・二回卒業式に参列させて頂きました。

拍手で迎える先生・在校生・来賓・保護者そして、私たち第六二回卒業生の見守る中を二九三名の第一・二回卒業生は整然と胸を張って入場されました。名前を読み上げる先生の声に負けない、はっきりとした声で生徒たちは返事をして起立していました。

藤岡校長の祝辞には東日本大震災にも触れられ、不安の多い中に卒業して行く生徒たちを励まし気遣う言

葉が綴られ、「桜さき、夢追う君とさようなら」で締めくくられていました。在校生代表の送辞には、先輩が巣立つた後の不安と責任を、「自ら考え、自ら動ける力をつけよう」との言葉がありました。卒業生代表の答辞には、「悩みもありましたが、自分は生かされている」と言う周りの人々への感謝の言葉と、「大手の門は世界に通ずる。不安はあるけれど自分を信じ進んでいこう、日本のために、さらには世界を支えることが出来るように」と言う力強い言葉に胸を打たれるものがありました。

一時間半の式典の間、私語も、咳払いさえも聞かない厳肅な式典は、近頃では体験したことが有りませんでした。

「質実剛健」「文武両道」「気品と清楚」、が受け継がれて行く大切さを強く感じました。大手門やお堀、私たちが当時着ていた制服も同じであることが、懐かしく、嬉しく思い、まだまだ私たちにもやれることはあると感じました。

末尾になりましたが、この式に参列させて頂けたことを学校長・道前会長・お世話して下さい方々から感謝もつしあげます。

**「不完全」の光**  
畑 奉枝（82回）

トイピアノ をご存知ですか？  
トイピアノ おもちゃ それは子どもが初めて出会う簡易ピアノとして作

られた、いわゆる おもちゃのピアノの総称です。

数年前に何気なく訪れたアンティーク市で見つけた一台の古いトイピアノ。素朴で可愛らしい音色やフォルムになんとも言い難い魅力。愛着を感じ、迷わず購入したことをきっかけに、私の新たな音楽の模索が始まりました。

ちょうどその頃 ピアニストとして、また、公演企画制作者として所属していた音楽事務所を辞め、自身の事務所（Sound office 音旅舎）を設立しようと準備に動き出していた頃です。トイピアノとの出会いが、今後の新たな活動や作品制作の核となる予感めいたものを感じ、その後も次々とタイプの異なるトイピアノを集めました。

響きは繊細で、初めて出会う音色ながら、どこか懐かしさを感じさせ





## 社会医療法人真泉会 今治第一病院

〒794-0052 愛媛県今治市宮下町1丁目1番21号  
(代) 0898-23-2000 FAX 0898-22-8273

URL <http://www.imabari-daiichi.com/>

理事長 曾我部 仁 史（69回卒） 名誉院長 加藤 逸 夫（52回卒）

ます。そして素朴で可愛らしさを見せながらも、妖しげで幻想的な世界観をも併せもっています。ピアノはもろろん、私の知るどんな楽器とも異なり、また、一台一台の個性の違いも新鮮で、不思議な魅力にあふれていました。

しかしながら実際に使い始めた途端に、その個性や魅力をステージ上で楽器として表現するには、あまりに大きな壁・難題が立ち上がり、頭を悩ませることとなりました。本来のピアノやクラシック音楽を土台に活動してきた私にとって、それまでの「音楽」や「楽器」に対する概念とはまるで正反対の、「不完全な」楽器とどう向き合うのか、試行錯誤の始まりでした。

《音程やタッチや音量は限りなく不安定》  
《音域は狭く鍵盤サイズも一台一台異なる》

《本来ピアノにあるはずのペダルがなく音の持続が困難》

《既存曲がほぼ当てはまらない》

固定概念の中での、「いい音」「いい楽器」とは両極に位置するようないピアノ。それでいて自己主張が強く、マイナス要素をカモフラージュしたり、コントロールしようとするほど、むしろ色褪せていくようにも思えました。扱い方によっては「可愛らしいおもちゃ」または「ちょっと変わった楽器」の域を出ないことも、大きな悩みの種です。トイピアノの本来の魅力はそれだけではないはずなのに…。初めて出会った時の衝撃を、聴き手と共感したい

思いと、自身の表現との大きなギャップに、ジレンマと自問自答の日々が続きました。

そんなある日、私の兄が発した何気ない言葉にハッとしました。「完全な楽器はある種聴く側にも、それなりの姿勢や耳を要求してくる堅苦しさも感じるが、この音は、「不完全」だからこそ、聴き手が自由に想像できる気がする」。

新しい音楽・新しい楽器と出会う時に、経験や概念が邪魔になることもあるのです。初めてトイピアノと出会った時に感じた魅力は、兄の言葉とも重なるものであったはず。それがいつしか、「完全」を良しとする楽器と同じように当て嵌めながら、なんとコントロールしようとしていたのかも知れないことに気づきました。考えてみれば、そもそも「いい音」「いい楽器」とは何であるのか、それは演奏家が一方的に決めるものでもなければ、人によって感じる好みも違います。「完成形の楽器」とは、ある種、対極に位置するトイピアノだからこそ、表現できる世界もあるはず。

《不安定な音程やタッチだからこそ表現できる幻想的な世界観》

《限られた音域だからこそ凝縮した表現に繋がること》

《音が持続しない分、イマジネーションが広がる「音の隙間」ができること》

《トイピアノならではのオリジナル曲制作への目覚め》

捉え方を変えたことでマイナス要素だと感じていたことが大きな魅力

となり、さらに無限の可能性を感じさせてくれるほどに一転しました。小さなトイピアノが放つ不完全だからこそこの光。この光はきつとこれからの私の演奏活動の道標となる…。そんな気がしています。

「部屋とワイシャツと私と甲子園??」  
それが一番大事??  
南海放送 アナウンサー  
藤田 勇次郎 (94回)



第74回 全国高等学校野球選手権大会 1992

後列左から2人目藤田勇次郎 (94回)

道前会の皆様いかがお過ごしでしょうか? 私のような若輩者が歴史ある道前会報に執筆するなど恐縮です。時間のない方は次の随想にジャンプして下さい(笑)。私が西条高校を卒業したのは18年前。もうそんなに経つのかと大きく育ったお

腹をさすりながら過ぎ去った日々の長さを感じております(ポンポン)。初めてお断りしておきますが、そもそも私は生粋の西条っ子ではありません。「祭り」も「うちぬき」も「ラーメン亭のチャールズ」も知らずに育ちました(ははは)。出身地は奈良県の大和郡山部市。豊臣秀吉の弟・秀長が治めていた郡山城がある城下町で金魚の生産日本一の街です。そこで小学生の時に「野球」を始め、自然と「甲子園」に憧れを抱くようになりました。ここまではよくある話ですが…。幼少期から自己主張が激しかった私。甲子園を目指すなら絶対に公立高校でなければいけないという思いがありました。当時、奈良の高校野球は天理・智弁の全盛時代。この2強に立ち向かう事ができる公立高校は残念ながら奈良には見当たりませんでした。そこで目を付けたのが母親の出身地である愛媛県。調べてみるとほとんど公立高校が甲子園に出場しているではありませんか! 思い込んでいた試練の道を行くが男のど根性! 反対する両親を説得し、親元を離れ、愛媛の高校で野球をする道を許してもらいました。そして選んだのが、わが母校西条高校です。野球部は過去甲子園で全国制覇の実績があり、「大手門」がある情緒あふれる雰囲気! 学校周辺のお堀や噴水も魅力的で、ここなら外周を何周でも走れるなと一目で気に入りました。こうしてわがままを通して夢を追う事を許してもらった「青春時代」。もう夢中で野球を追いかけました。故・森田監督の指導のもと打撃に守備に少しでも上手くなりたい一心で練習を重ねました。しかし今、高校時代を振り返って思い出すのは、そのような厳しい練習ではな

内科 胃腸科 呼吸器科

院長 中村 敏雄 (65回卒)

医療法人 中村内科胃腸科

〒791-0510 西条市丹原町丹原21-6  
TEL 0898-68-4976

く通学の苦勞と同僚や先輩方の優しさです。母の実家は周桑郡丹原町長野（現西条市にはなりました）。学校まで片道22キロの道のりを自転車で行きました。雨の日も風の日も、何も無い河川敷をひたすら進む1時間10分。帰り道は街灯がなくて真っ暗な道を甲子園で校歌を歌う自分を想像しながらペダルを漕ぎました。

練習を終え帰宅すると時計は12時を回り、家を出るのは朝6時。当時の野球部は年に1度しか休みがなく、私の乗っている自転車は1年半で地球1周の距離に到達しました。それでも辞めたいと思っただ事は一度もありません。それは、こんな私を温かく迎えてくれた先輩や同級生、そして保護者の皆さんがいたからです。試合の前日などは同級生や先輩の家に招いて頂いて、「ご飯をご馳走になり、何軒ものお宅に泊めて頂きました。その度に温かい土地に來られて良かったと心から励まされました。そして祖父と祖母突然同居する事になった孫の世話を、親に代わって十分にしてもらいました。

周りの方の支えがあり続けられた野球。掛け替えのない思い出もできました。2年生の夏。先輩方の活躍で、西条高校としては30年ぶりに夏の甲子園に出場。私も背番号10番でベンチに入りマウンドまで踏ませてもらいました。3年生になった最後の夏はシードに入るものの県1回戦で敗退。勝って泣き、負けて泣き、その時にしか味わう事ができない、貴重な経験をさせてもらいました。

大学卒業後、私は今、南海放送でアナウンサーという仕事をしています。スポーツの実況を中心に、ラジオの番組や報道記者としてニュース原稿を書いたりもしています。去年は被災地仙台で全国

取材クルーの一員として、長期で応援に向かいました。その他、ディレクターとしてドキュメント番組の制作をしたりもしています。どんな仕事をするときも、一心不乱に白球を追いかけた高校時代を思い出して『成せば成る』の気持ちで挑戦する事を心がけています。

放送は公平中立でなければなりません。やはり母校は特別です。これからも、影から日向から野球部に限らず母校を応援し続けたいと思います。皆様に幸あれ！

PS 本文とタイトルの関係性は全くございません。（笑）

### 将来の抱負

後田 翔平（109回）



私の将来の夢はオペラ歌手として、世界中で歌っていくことである。

西条高校生時代、私は合唱部員として、たくさんの歌を歌っていく中で音楽の難しさや厳しさ、そして楽しさを知った。また仲間と共に音楽を作り上げていく過程の中で、私は自分の歌を持つ可能性も知った。そこで当時の音

楽教諭である永井先生をはじめ、沢山の方々に支えられながら、私は音楽の道を進むことを決心し、東京音楽大学へと進学した。

入学してすぐの自分は、ただ漠然と「音楽が好きだから」という理由で歌を歌っていた。そんな時、本格的に音楽の道を志して間もなく、音楽的な知識もほとんどない私の歌声を聞いた大学の先輩が、「ボエムムのロドルフォとか向いてそう。」と言った。私には先輩の言っている意味が全く分からず、家に帰るなりすぐにインターネットで検索した。大学に入学してすぐの私は、初めて聞くオペラや歌曲の名前を、インターネットで検索し、そのオペラのストーリーや作曲された背景などの知識を身につけていったのである。またインターネットで検索するだけではなく、DVDやCDもたくさん聴き、実際にチケットを購入したくさんのオペラや演奏会へと足を運んだ。その中で私は、言葉では表せないほど美しい声で、高らかに歌い上げる世界的なオペラ歌手の姿に圧倒されたのである。「自分の生きる道はこれだ。」将来、オペラ歌手になることを決心した瞬間である。

自分がオペラ歌手になると決心してからの自分は、自分の歌を磨くためにはできることをなんでもやってきた。しかし、練習すればするほど、あまりにも高い理想との差を知り愕然とし、考えすぎるあまり上手く自分の歌が歌えない時もあった。そんな時、悩み苦しんでいる私を恩師や家族、友人が助けてくれた。たくさんの方々を励ましていただき、応援していただいている

中で私は、自分の歌を応援してくれる人がたくさんいることを知ったのである。そして、私はあることに気がついた。それは、自分が自分の音楽を信じていることができなくなった時、その人の音楽は死んでしまうということである。自分でさえ魅力がないと思う歌をお客様の前で歌っても、聴いて下さったお客様は決して感動できるはずがない。音楽家は決して自分の音楽を悲観してはならないということに気がついたのである。自分が自分の音楽を信じていることで、それが自信になり、力となり、その人の奏でる音楽の魅力となるのである。そのことに気がついてからの私は、「自分の歌は最高だ。」と自分に言い聞かせてから、ステージに上がっている。また、そのように自分に言い聞かせ、納得できるように普段の練習から努力している。高い理想を求め、謙虚に、そして正確に今の自分の実力を見定め、ただし自分の音楽を悲観することなく、自信をもって本番に臨む。これが今の私のスタンスである。

このように今の私は、音楽を通じて非常に充実した日々を送っている。また自分自身でオペラ歌手という道が、自分にとって向いていると強く感じている。

私は、まだまだ自分が上手くなるためのアイデアをたくさん持っている。寝る間も惜しんでそのアイデアを練習室に籠り試したいほどである。そのアイデアを無駄にしないように、これからも正面から自分の音楽と向き合い、自分が心おきなく歌えることへの感謝の気持ち忘れずに、日々邁進していくことが私の将来に向けた抱負である。

## さか 歯科 医院



院長 坂 健太郎（72回卒）

〒799-1353 愛媛県西条市三津屋南8-7  
TEL.0898-64-2077



乾杯



閉会あいさつ

# 平成 23 年度 総会報告



2年に一度の道前会総会が、平成23年11月19日(土)西条国際ホテルにて開催されました。

役員はじめ多数の方々のご協力により、総会は200余名の参加を得、厳粛な雰囲気の中で進められました。曾根康代理事(65回)の司会で、物故者への黙祷、村上俊行会長(58回)挨拶、藤岡典夫校長(72回)挨拶と続き、会務報告・会計報告、平成23年度事業計画・予算、役員紹介と滞りなく総会を終えることができました。ありがとうございました。

総会の後、講演に移り、三木秋男氏(48回)に、『細井平洲と西条藩そして擇善堂』と題して、江戸時代から明治時代にわたって我が西条藩が日本の教育振興に果たした役割を、約1時間にわたってとてもわかりやすくお話ししていただきました。

引き続き、年森恭子理事(79回)の司会で親睦会に移りました。まず48回卒業の男性2名と白菊40回卒業の女性5名に花束の贈呈が行われ、三浦晃松



山道前会長(49回)の乾杯の音頭高らかに、懐かしい面々との歓談が始まりました。グラス片手に先輩・後輩の垣根を越えて、時の経つのも忘れて語り合いました。

今年も60回卒業生を中心に、『我が青春』と『校歌』を熱唱。最後に本校出身の日和佐敬三先生(80回)のエンター会場は大いに盛り上がりました。

昨年に引き続き、西条高校の文化祭に参加。東京道前会主催の進路説明会と今年新たに、そば打ち実演・試食コーナーを設けました。

前日からの仕込みや会場準備と大変



でしたが好評を得、道前会の活動を在校生の皆さんにもわかっていただけたと思います。東京道前会他の各支部の方々にも今後ご参加いただけたらと考えております。よろしくお願



## 本部と支部の意見交換を行う

道前会本部総会当日の午前中に今回初めて本部・支部役員懇談会を開催しました。

まず、村上市長より、この懇談会は近畿道前会(の故)高須賀前会長の依頼で実現した話があり、本部と意見交換して、お互いが理解を深めてもらう場にしようとの事でした。

本部からは、活動報告や年会費の納入状況について説明があり、支部からは、近況報告や要望がありました。短い時間でしたが、大変有意義な懇談会になりました。





平成23年度一般会計決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日 単位 円

収 入

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 収入額, 増 減, 摘 要. Rows include 前期繰越金, 会費, 入会金, 手数料, 広告料, 雑収入, 合計.

支 出

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 支出額, 増 減, 摘 要. Rows include 総務費, 需要費, 通信費, 旅費, 人件費, 事業費, 会議費, 總會費, 予備費, 合計.

収支差引額 収入額 10,564,855 - 支出額 8,303,700 = 繰越額 2,261,155

平成24年度一般会計収支予算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日 単位 円

収 入

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増 減, 摘 要. Rows include 前期繰越金, 会費, 入会金, 手数料, 広告料, 雑収入, 合計.

支 出

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増 減, 摘 要. Rows include 総務費, 需要費, 通信費, 旅費, 人件費, 事業費, 会議費, 總會費, 予備費, 合計.

平成24年度 事業計画書

会報の発行

- (第20号は平成24年6月1日発行予定)
支部活動への助成並びに同期会開催等への支援・協力(資料作成等)
卒業生へ記念品の贈呈(卒業証書ホルダー・道前会賞)
新入生へ絵葉書の贈呈
生徒の全国大会出場へのお祝い(高体連・高文連主催、国体等)
文化祭における在校生への啓発活動(道前会コーナーの開設)
芸術文化発表会の助成

平成23年度積立金会計決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

前期繰越額 2,000,000(任意積立金 2,000,000)
当期積立額 1,000,000 百二十周年記念積立金
当期取崩額 0
次期繰越額 3,000,000

平成23年度全国大会出場祝基金 会計決算報告書

平成23年4月～平成24年3月31日

前期繰越額 1,615,900
当期積立額 0
当期取崩額 0
受取利息 258
次期繰越額 1,616,158

平成23年度末財産目録

平成24年3月31日 単位 円

預 金
東予信用金庫普通預金 4,666,958
愛媛銀行普通預金 1,616,158
ゆうちょ銀行振替口座 588,989
伊予銀行普通預金 5,208
資産合計 6,877,313
内 任意積立金 2,000,000
全国大会出場基金 1,616,158
百二十周年積立金 1,000,000
一般会計繰越金 2,261,155

監査報告書

適正な会計処理・報告がなされていると認めます。
平成24年4月11日

会計監査

徳 増 達 史

会計監査

桑 敏 明

会計監査

加 藤 正 典

平成23年度 会務報告

平成23年

- 4月8日(金) 平成23年度入学式
4月15日(金) 平成22年度会計監査
4月20日(水) 理事会
5月10日(火) 評議員会
6月11日(土) 近畿道前会総会
6月15日(水) 理事会
6月18日(土) 岡山道前会総会
6月25日(土) 東京道前会総会
7月21日(木) 理事会
9月14日(水) 理事会
9月27日(火) 西条高校文化祭(道前会コーナー)
10月21日(金) 松山道前会総会
10月26日(水) 理事会
11月6日(日) 定時制道前会総会
11月7日(月) 理事会
11月19日(土) 道前会総会
12月7日(水) 理事会

平成24年

- 1月25日(水) 理事会・評議員会新年会
2月22日(水) 理事会
2月23日(木) 市役所道前会総会
2月29日(水) 道前会入会式
3月1日(木) 平成23年度卒業式(第112回)
3月21日(水) 理事会



# 支部会だより

## 東京道前会

近藤 篤 (68回)

平成23年度の総会は、6月25日(土)11時より、会場を明治記念館に移しての開催となりました。

東京地方は雨季としては好天続きで、当日は薄曇りの穏やかな日和で、出席者は185名と予想以上の賑いでした。

母校からは第34代藤岡典夫校長先生、白石俊一事務長、本部からは村上俊行会長、近畿道前会より三浦東八会長の来臨を賜りました。

総会は、阿部東京道前会会長の開会の挨拶、そして藤岡典夫校長先生、村上俊行道前会会長よりのご挨拶を頂きました。続いて近藤幹事長の会務報告、河上監事の監査報告があり、満場一致で承認になりました。さらに副会長に山内重徳さん(67回)、幹事に西原信昌さん(58回)、徳増惇さん(64回)、原田広史さん(69回)が選任されました。



懇親会は最長老の浦部幸雄さん(46回)と111回の新卒トリオの大吉悠介さん、日野太一郎さん、宮島貴大さんが壇上上がり、元氣良い乾杯の音頭で始まりました。

今回のアトラクションゲストはROCO&MIEのデュオで、安永紘子さん(ヴォーカル)と久門美栄子さん(ピアノ)とともに97回で武蔵野音大卒でした。素晴らしい演奏に一同聞き惚れておりました。さすがに音楽教育の盛んな土地柄を感じさせるものでした。

地元の物産販売と、恒例となった西条特産野菜販売は、いずれも好評のうちには完売となっております。

しばし談笑のひとつと、寺田紀子運営委員長が初参加の人や気になる人を紹介して、会場をくまなく回って盛り立てておりました。

恒例の抽選会は、ゲストのROCO&MIEのお二人にくじを引いて頂き、初参加の方や、久々の方を中心に福の神が微笑んでおりました。

最後は女学校校歌、沈黙節、に引き続き恒例の秋山重樹さん(87回)十亀昭人さん(88回)の応援団コンビの指揮のもと、西条高校校歌斉唱、そして応援歌「わが青春」を高らかに歌い上げました。

締めくくりは、近藤清史副会長の開会の挨拶で、翌年の総会での再会を誓いつつ散会となりました。

今年度の特筆すべき活動は、昨年に引きつづき母校の文化祭(9月27日)に和田卓也さん(86回)が道前会のフリスをお借りしての東京生活ガイドナス及び東京道前会の活動の紹介をいたしました。今年はさらに近藤清史、水嶋伸子の両副会長がそば打ち実演・試食会を催して大盛況でありました。

さらに、本部の総会及び支部長会議には阿部会長と寺田紀子運営委員長が参加をいたしました。特に初めての支部長会議では、会費の二重徴収の問題、各支部とも若い人の参加が少ない等の問題等、活発な意見交換がございました。今後引き続き総会開催の機会に意見交換の場を期待しております。

## 近畿道前会

近畿道前会幹事長 塩出 雅 (70回)

近畿道前会では、毎年総会を開催しています。平成23年度は、6月11日にホテルグランヴィア大阪を会場として開催されました。

来賓に、村上俊行道前会会長、阿部陽一東京道前会会長、そして母校より藤岡典夫校長を迎え、95名の会員の出席を得ました。

第一部の総会は松本和行会員が司会を務め、物故会員に対する黙祷から始まりました。高須賀会長が開会の挨拶を行い、その後、来賓を代表して村上俊行道前会会長の挨拶を頂き、総会議事へと進みました。決算、予算ともに承認されました。

今年度は役員改選の年で、高須賀会長が退任し、新たに三浦東八氏(61回)が会長に、副会長に山地美智子氏(61回)と岩崎秀雄氏(65回)が選任され、高須賀氏、元会長の工藤たけ夫氏が顧問に加わりました。

第二部は郷土史研究家の満條克己氏に御講演を頂きました。演題は「天正の陣 郷土軍かく戦えり」で、秀吉の命を受けた毛利軍が総勢三万の大軍で新居郡に攻撃を掛けた時、金子氏や石川氏などの郷土軍がどのように対抗して戦い、滅んでいったかを資料を基にお話ししました。

第三部は圖子会員の司会で、懇親会。藤岡校長、阿部東京道前会会長のご挨拶の後、食事となりました。今年度も、バイキング形式で行いましたが、そのためか、あちこちで学年を越えて話の輪が広がっていました。今年度は卒業したばかりの会員も参加され、年齢層の広い会となりました。また、西条市産業支援センター、名水ブランドの方々のご協力で、地元特産品の販売スペースも設けられ、好評の内に完売しました。かくして会員の御協力の下、和氣譚々のうちに来年の再会を期しつつ、校歌を高らかに斉唱して、総会を終えることができました。

近畿道前会では従来開催していたゴルフコンペのほかに、あらたに「歩こう会」が加わり、ほぼ月に一回、ハイキングや遺跡探訪を行っております。参加者も少しずつ増えていますが、もっと盛んになりたいと思っております。それ以外の集まりも増やして行きたいと思っております。

近年の課題である、会員、特に70回台以降の会員の確保は遅々として進まず、本部を含めた新たな対策を模索しなければならぬ時かとも思います。本会としてはホームページ(URLは、http://kinkidouzenkei.ehoh.net)を作成し、会則やこれまでの講演者と演題、総会の様子や会計報告などを載せ、情報の発信を図っておりますが、訪問者はそれほど多くなく、どのように周知するか問題となります。本紙を手にされた方は、ホームページをぜひ御覧下さい。近畿在住の方々をはじめとして、皆様からの御連絡をお待ちしております。「問い合わせ」には連絡方法を載せておりますし、掲示板もございますので、御利用下さい。

2012年度の総会は、7月7日(土)にホテルグランヴィア大阪で開催されます。詳しいことはホームページにも掲載しますし、手紙で知りたければ、方は、御遠慮なく御連絡下さい。別途お送りいたします。多くの皆様の御来場をお待ちしております。

### 日本医療機能評価機構認定

内科・循環器科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・眼科  
耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・泌尿器科  
歯科・血液透析・人間ドック・通所リハビリテーション

### < 関連施設 >

居宅介護支援事業所・特別養護老人ホーム「ついたちの里」  
<http://www.saijo-c-hospital.jp>



社会医療法人  
同心会

SAIJO CENTRAL HOSPITAL

## 西条中央病院

(0897) 56 0300 (代表)  
西条市朔日市 804 番地

岡山道前会

三浦 賢稔 (58回)



平成23年の総会を、6月18日に岡山市の「駅前ミヨシ」で会員18名の参加のもと、母校から藤岡校長、本部から村上会長の御出席をいただき開催しました。

総会は、冒頭、この1年間に故人となられた方々に黙祷をして哀悼の意を表し、御冥福をお祈りしました。

そして、菅会長の開会挨拶(継続は力なりを旨に引き続き支部の活動に取り組みたい。)のあと、藤岡校長及び村上会長から、母校、本部の近況等について要旨、次のとおり御報告いただきました。

- 1、今年の大学進学者は、144名で旧帝国大学を含む難関校にも合格した。当地の岡山大学にも20名の進学者がいるので、当会の会員増につながれば幸いです。
- 2、就職希望者は、100%達成した。
- 3、運動部の活動では、県総合体育大会に244名の選手が出場し、このうち、陸上競技、球技で数種目四国

大会に出場している。

4、道前会の運営では、

(1)会報の発行の掲載情報を最新のものにするため6月に変更し、過日発行した。

(2)インターネットのホームページは充実しつつあるので、閲覧してほしい。

(3)会の活性化のため、母校の文化祭への参加(ブースの確保)、同期会開催への支援、会費納入会員の増加に努めている。

議事では、議案は原案どおり承認され、総会は終了しました。

このあと、本年傘寿をお迎えになられる、山中文字氏及び渡部明良氏を顕彰して記念品を贈呈しました。

引き続き懇親会に移り、米寿を迎えられた神崎登氏と山中文字氏の乾杯の音頭で開宴し、東日本大震災の被災者に思いをいたし、全員で「上を向いて歩こう」を合唱したあと、それぞれ近況報告と藤岡校長、村上会長をはじめ皆様の力ラオケでおおいに盛り上がり、宮竹昭芳氏の中締めで来年の再会を誓い閉会しました。

広島道前会

事務局 榎垣 忠 (53回)

東日本大震災から今年3月11日で1年を迎えました。大地震と大津波で犠牲になった方々とご遺族に心から哀悼の意を表します。

1日でも早い復興をお祈り致します。母校の大変素晴らしいホームページを見ました。

卒業して幾星霜...思い出すのは故郷と母校です。懐かし思い出が去来します。感銘を受けた記事が有ります。又初めて知った記事も有りました。

母校の歩みの中の特に「道前の群像」の記事の中で紹介のあった第1回卒業生 菅 源三郎...初めて知りました。

(記事内容省略)

西条陣屋：西条の歴史の勉強が出来ました。

編集の素晴らしさを感じたのは、校歌です。我が青春・燧の灘・南海道前西条高等女学校校歌何回もリプレイして聞きました。

これからも折りをみて聞きたいと思えます。有難う御座いました。

昨年11月本部総会に広島から大下副会長(69回)が出席致しました。今年度の道前会広島支部総会予定：4月

会長の選出・役員改選・会則作成・広島支部会員増強

今後益々広島支部の発展を図ります。今後とも本部のご支援宜しくお願い致します。

福岡道前会

会長 中路 幸信 (62回)

去る、平成23年11月19日今年2度目の福岡道前会を開催いたしました。やはり同じ学舎にて過ごした者同士、集まれば年代の違いなど関係ございません。思い出は尽きなく郷里西条のことばかり、今回は福岡道前会にとつてうれしくも名譽な情報が入りました。

先輩の大岩俊夫先生(50回)が立派な写真集を出版いたしました。

もう20年来の福岡道前会でのお付き合いですが、学生時代からの趣味だとか、ちつとも知りませんでした。

趣味が高じて、でもまさに「玄人はだしの術」これは本部にお知らせして機会あらば、道前会報に掲載頂けないものか本品をお送りいたしました。

野球部出身の私ですが野球のみならず会報は楽しみに見えています。全国の道前会の益々の発展お祝い申し上げますと共に、福岡道前会のご報告、よろしくお取り計らいくださいませ。

松山道前会

三浦 晃 (49回)

定時総会を開催

「西条藩と擇善堂」の講話を聞く

平成23年度の定時総会が10月21日(金)18時から東京第一ホテル松山で開催された。生憎の雨模様ななか卒業を過ぎられた青野誠一大先輩(37回)ら会員60名、母校から藤岡典夫校長、道前会本部から村上俊行会長、寺川和夫事務局長がそれぞれ来賓として出席して頂いた。



山元眼科

西条市くすのき通り Tel 0897・55・0155 YAMAMOTO EYE CLINIC

愛媛県眼科医会会長

山元一俊 (70回卒)

日野利夫事業本部長(57回)が司会、飯尾益美元会長(40回)、桑原道廣元副会長(46回)、金子歌子元副会長(白菊35回)ら昨年の総会以後鬼籍入りされた物故者に黙祷を捧げた後、全員で校歌を斉唱した。

三浦会長の開会のあいさつの後、藤岡校長から「母校の進学状況やクラブ活動」について、また、村上会長からは「ホームページや委員会を通じての道前会活性化への取り組み」について報告があった。収支報告や活動状況を承認した後、松山大学法学部山内譲教授(67回・元西条高校校長)から「西条藩と擇善堂」と題する講話があった。

この中で教授は、「明治時代の発展は江戸時代の文化的な蓄積、特に教育面の達成があったからだ。萩の明倫館や米沢の興讓館、鹿児島造士館、本県では松山の明教館、西条の擇善堂など江戸時代の中・後期には全国で多くの藩校がつくられ、武士の子弟が儒学、歴史、武芸などを学んだ。そして、それらの藩校が明治に入って旧制の中学校に引き継がれ、その教学の精神は現在の高校へと引き継がれている。西条高校も「擇善堂高校」の名もあり得た。」など西条藩の教学の歴史の話があった。出席した会員の多くから、「擇善堂があったことは初めて知った」、「母校と藩校の繋がりを聞いて伝統校といわれる意味が判った」、「母校の伝統を再認識した」などの声が聞かされ、擇善堂西条中学 西条高校への母校の教学の歴史を学習するいい講話だった。

懇親会に入り、出席者で最年少の藤田直明さん(84回・伊予銀行)が「皆さんと一緒に松山道前会の活性化を」と力強く乾杯の首領をとった。卒業期順に配置されたそれぞれのテーブルでは、恩師の思い出や、同期友輩などの消息を語り合い、絆を深め合った。今年には、三浦、森、佐伯、藤原の49回、水口、光田、宮嶋らの52回、今井、星加、松本、向井らの55回、佐伯、越智、高



写真は藤田節子夫人を囲んで

橋ら69回の同期生が多く出席された。宴も酣となり、松本三郎さん(55回)の指揮で、全員が「ふるさと」、「荒城の月」を合唱、49回の全員が「南海道前西条町」の「沈瀬節」を合唱するなど雰囲気盛りあげた。また、松本三郎さんがアンコールに応え「千の風になつて」を独唱、流石大学教育学部で音楽を専攻、長年高校で生徒の指導に当たってきただけに秋川雅史に劣らぬ声量豊かな歌唱力で大きな喝采を浴びた。

**今治道前会**  
今治道前会会長 西辻 勝平(52回)  
故藤田元司(52回)の七回忌に寄せて

最後に藤田幸宏副会長(60回・愛媛プレスウイン)の「一本締め」で総会を閉じた。

去る1月29日都内の寺院に於いて執り行われました七回忌法要に出席させていただきました。当日は、彼の監督時代に共に戦った原辰徳(現巨人軍監督)さん他多くの仲間が参列されました。法要も終わり、供養の席上当時の思い出を語り合いました。

したが、彼はリーダーとして素晴らしい包容力があり、また優しさの中に厳しさもあつたとか、誰もが時の経つのも忘れるほど思い出話に熱中していました。今日本プロ野球界に於けるリーダーとしての能力の高さを知り、我ら同期生として、また道前会員として誇らしく思い、彼が野球界に残した功績を何時何時までも継承していく義務があるのではないかと感じています。

**西条市役所道前会**  
杉野 啓一(71回)

「南無」

西条市は、合併から7年の歳月を重ね、この間「チーム西条」の名のもと、市民が一丸となり「自己責任」と「自己決定」の原則を貫徹しながら、「自立」と「自活」の実現を目指してまいりました。その結果、日本経済団体連合会が進める「未来都市モデルプロジェクト」において、農業分野では全国で唯一の行政パートナーに選ばれ、「西条農業革新都市」を本格的に始動することができました。

また、ベトナム国フエ市において、当市独自の防災事業「十二歳教育推進事業」をモデルとした新たな防災教育プログラムの構築が進むなど、成長著しいアジア諸国とのつながりも深まり、「元氣あるまち西条」が着実に前進しています。

さて、当支部は、平成23年度総会を、平成24年2月23日、西条国際ホテルにおいて、来賓として道前会から村上俊行会長、本山昭雄副会長、寺川和夫事務局長、学校から藤岡典夫西条高等学校長のご臨席のもと、田中明(67回)支部会長はじめ会員100余名が出席し盛大に開催しました。

懇親会では、世代を越えて和気あい



全国の道前会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします

松本 慶三(59回卒)



# 同窓会だより

## 五十二期生同級会

西辻 勝平(52回)

十一月七日西条国際ホテルにて八十名参加のもと開催されました。開会に先立ち物故者を偲び黙祷を行いました。十五名に余る仲間を偲ぶさびしさを感じました。

地元代表として佐伯継一郎氏による歓迎の挨拶があり、引き続き各地区代表による近況報告を受け開会のセレモ



西条高校52回卒業同級会 平成23年11月7日 於：西条国際ホテル

ニーを終了致しました。

懇親会は山口県宇部市より参加の田中省三君の乾杯で始まり、ワイワイガヤガヤ時のたつのも忘れ和やかな歓談が交わされるなか恒例の次期開催地区への同期会旗の引継も終わり全員による校歌合唱、来年の再会を誓い合いながら盛会のうちに終了した。

## 五十八回同期会について

村上 俊行(58回)

今秋に松山で開催予定の燦々会(五十八回卒業生)同期会は、都合により延期になりました。

## 西条高校卒業証書授与式

村上 嘉明(62回)

今にも泣き出しそうな空をみながら、いつも八堂山に登ってるトレシャツに背広を着て、午前九時過ぎに家を出ました。約十分程で道前会館に到着、二階に案内されて驚きました。いやいや参加予約の同級生八割が集合してました。年寄りは早起きです。前日に同級会の世話役両女史に、「早く行って道前会館の二階へ参加をする人の誘導をしてんよ。」と頼まれてましたので、「このぐらいと思っ

て出かけたところがとてもとても、各位早々のご到着で、仮事務局を請け負うてる私が面食らいました。

道前会館では、校長先生のご挨拶があり、道前会長のご挨拶がありました。式は午前十時より約一時間半、トイレにはなるべく行って下さい。との伝達もあり、言わずもがなトイレは大混雑でした。十時に二十分前に体育館への案内があり、体育館へ入っていくと最早在校生が着席しており、卒業生の保護者も着席しておりました。私たちは第六十二回卒業生と書かれた一団の席に着席し、程なくすると卒業生入場、とのアナウンスがあり、在校生のプラスバンドに乗って拍手の中、卒業生が入場してききました。全員入場してきて二百九十三名の式が始まりました。私も五十年前には四百三十名でした。やはり少子化の影響です。卒業生一人一人の名を読み上げクラス代表が証書をもらいに行く、続いて各種功績者に賞状の授与、校長先生の式辞、来賓挨拶、在校生送辞、卒業生答辞、やはり現代の子の送辞、特に答辞が今の難しい社会に船出をしていく、若者らしい純粋な覚悟が言葉の端々に読み取れ心を打たれました。

私もも卒業して五十年半世紀経ちました。その間、鬼籍に入られた恩師の方々、志半ばにして倒れた同級生のご冥福を祈り、ほしくもない病を得て闘病中であつたり、両親兄弟の看護に明け暮れている友人の一日も早い回復と看護に対する励ましと、ここに出席できた幸せをかみしめつつ会場を後にしました。

## 平成23年度 卒業証書授与式



## 六十八回生一年六組クラス会

田坂 一平(68回)  
(平成二十三年九月二十四日開催)

かつて憧れの西条高校入学を果たし希望に燃え、爛漫の桜咲く大手門の前で輝いた一年六組。そんな私たちの前に現れたのは黒瀬康弘先生。先生は大学卒業後に西条高校の教壇に立たれ三年目で初のクラス担任、八歳年上で何もかもがスマートな早稲田仕込みで優等生的兄貴のような存在感を私たちに示してくれていた。そして先生は、その年をもって自らの夢を抱き颯爽と実業家へと轉身されていった。四十五年前のそんな記憶がほとんど消えかけていたところに昨年、思いがけず先生の御健在ぶりが明らかとなり、とんとん拍子の開催となったのである。

# 卒業50周年記念

# 第62回卒業生 有志一同

早速、春から準備会と称して近在の男女五名が居酒屋にて数回宴を張り、都度恩師へ報告がてらメールをすると…君らは私をダシに飲んでやるよ…と返される始末。四十数年の御無沙汰もどこへやら、クラスメイトへの連絡網も順調に浸透して最終的には五十五名中、二十五名の元教え子が彼岸花咲く九月、西条国際ホテルに参集し恩師との再会を期することとなった。近在郷の者十六名、広島、神戸、大阪、奈良、滋賀、そして名古屋、東京からも馳せ参じる想定外の盛り上がりを受けて大阪河内の先生からも…六十過ぎたら皆同級生、朝まで飲むぞ…との檄が届く。

そして当日、物故者二名への黙祷ではじまり、三時間半の一刻は一同全員があつた頃の青春回想の場となった。中でも、黒瀬先生の未だ変わらぬバイタリテイーには教え子側の方が圧倒されるほどであったが、それは心の在りようひとつで青春は色褪せることなく其の身に輝き続けるものとの師からの教示を今に及んでなお戴いたように思う。

恩師曰く…二時限目は五年後とする…との言葉で締めとなつたが、なかなか高齢者と言われる域にお互い入ったといえども師弟関係や長幼の差は伊達じゃ無いと思ひ知らされながらも、次回開催では元気だけでも負け

ないよう肝に銘じておくことにした。



同窓会・

よく開いてくれました

越智 慎司(87回)

「高校の同級生ってみんな今どうしてるんだろう」そんな思いつきでつい同窓会がやってみたいくなりました。幹事の1人、土野展康君から受けたメッセーヂです。そこから87回全体という大規模な同窓会をよく開いてくれました。幹事の皆さん、お疲れ様でした。

参加者は85人。おっちゃん、おばちゃんになつたけど、面影を残した顔が、会場に次々と現れました。

後藤勝正先生、高橋巨先生、村上翼先生、星加洋志先生、森川寿先生、矢野みどり先生(五十音順)の6人の先生方もご出席



平成23年12月30日 於：西条国際ホテル

くださり、昔のこと、今のこと、あれこれ話しているうちに時間はあつという間に過ぎました。こしが卒業して25年目ということにも気づかされました。我が身を振り返ることが少ない中、高校時代の思いも少しよみがえり、気も引き締まりました。3年後くらいにまた同窓会をするそうです。参加した人、できなかつた人、次の同窓会で会いましょう！

母校に立つ同窓教職員

卒業回

氏名

教科

106	100	96	92	91	91	90	90	90	90	89	88	88	87	85	85	83	83	82	81	80	78	77	72	72	71	69	64	卒業回
横井	石川	豊島	真田	永井	宇佐美	菅代	田代	日浅	丸山	樋口	田邊	川又	真田	佐伯	合田	井上	桑原	大谷	近藤	日和	伊藤	神野	白石	藤岡	一柳	高橋	青木	氏名
英里香	芳美	秀一郎	幸治	紀夫	友佳子	哲也	知典	久美子	直子	智恵子	水江	孝弘	満	孝史	和憲	知子	恵子	修一	智和	敬三	栄一	雄子	俊一	典夫	幸利	徹	弘隆	教科
講師・地歴公	主事	教諭・地歴公	教諭・数	教諭・音	実習助手	教諭・理	教諭・国	教諭・英	実習助手	教諭・英	教諭・英	教諭・数	教諭・数	教諭・地歴公	教諭・理	養護教諭	教諭・英	教諭・理	教諭・英	教諭・地歴公	教諭・保体	実習助手	事務長	校長	教諭・保体	講師・商	講師・数	教科





一、本 部  
道前会本部 事務局  
〒793 8509  
西条市明屋敷234  
西条高校内道前会館  
0897 53 2192  
FAX 0897 53 2192  
振替口座0168048745  
会長 村上俊行 (58)  
副会長 笹沼田中美千代 (58)  
理事 山田昭雄 (61)  
藤田嘉夫 (49)  
西辻勝平 (52)  
近藤勝志 (56)  
木下(池内)基代子(岐溶子) (56)  
栗田肇 (58)  
西原俊基 (58)  
森寒藤原真智子 (60)  
鈴木通敬 (61)  
伊藤孝司 (64)  
高石(曾我部)シユ子 (64)  
曾根(平塚)康代 (65)  
塩出崇 (67)  
森森(多美子) (68)  
高橋行夫 (72)  
鳥谷浩 (76)  
一色(星加)朝美 (76)  
村上(村上)直子 (78)

二、支 部  
東京道前会  
〒105 0012  
東京都港区芝大門174  
トーア芝ガールデン6F  
03 5733 2313  
FAX 03 5401 4762  
会長 阿部陽一 (57)  
副会長 水嶋(高橋)伸子 (63)  
近藤清史 (64)  
山内重徳 (67)  
近藤篤 (68)  
田川右史 (48)  
相談役 平井白石(八重) (51)  
榊弘 (51)  
松本真一郎 (56)  
石井栄三 (58)  
明比章 (70)  
津田林(ゆみ) (74)  
一柳(ユカリ) (66)  
寺田鈴木(紀子) (70)  
曾我夏人 (81)  
和田卓也 (86)  
理事 年森(入交)恭子 (79)  
高橋勝行 (85)  
曾我部保次 (87)  
伊藤栄一 (78)  
加藤正典 (54)  
秦敏明 (63)  
徳増達史 (71)  
寺川和夫 (65)  
武賀(日野)美恵子 (67)  
校内理事 伊藤保次 (87)  
會計監査 加藤正典 (54)  
事務局長 徳増達史 (71)  
事務局員 武賀(日野)美恵子 (67)

近畿道前会  
〒534 0025  
大阪市都島区片町142  
シャトーテル大手前内  
06 6354 1351  
顧問 明比篤美 (50)  
堀切民喜 (50)  
小林礼子 (白菊37)  
工藤治夫 (58)  
三浦東八 (61)  
山路美智子 (61)  
岩崎秀雄 (65)  
塩出雅 (70)  
加藤正司 (55)  
圖子洋志 (69)  
會計監査 榊弘 (51)  
榊弘 (51)  
松本真一郎 (56)  
石井栄三 (58)  
明比章 (70)  
津田林(ゆみ) (74)  
一柳(ユカリ) (66)  
寺田鈴木(紀子) (70)  
曾我夏人 (81)  
和田卓也 (86)  
顧問 荒川武二 (39)  
山路正宏 (50)  
渡部宏 (51)  
松本(松本)順子 (白菊40)  
幹事長 森寅男 (58)  
副幹事長 長野達夫 (58)  
會計 矢葺延美 (58)

福岡道前会  
〒818 0011  
福岡県筑紫野市阿志岐23717  
事務局 中路幸信 (7)  
092 925 0733  
090 2854 3111  
相談役 白川幸司 (57)  
池田幸貢 (60)  
中路幸信 (62)  
中野勝次 (62)  
近藤久夫 (70)  
幹事 十亀勝次 (62)  
會計監査 榊弘 (51)  
榊弘 (51)  
松本真一郎 (56)  
石井栄三 (58)  
明比章 (70)  
津田林(ゆみ) (74)  
一柳(ユカリ) (66)  
寺田鈴木(紀子) (70)  
曾我夏人 (81)  
和田卓也 (86)  
顧問 荒川武二 (39)  
山路正宏 (50)  
渡部宏 (51)  
松本(松本)順子 (白菊40)  
幹事長 森寅男 (58)  
副幹事長 長野達夫 (58)  
會計 矢葺延美 (58)

今治道前会  
〒799 1522  
今治市桜井1111  
(株)旭東産業内  
0898 48 5637  
会長 西辻勝平 (52)  
副会長 村上小夜子 (63)  
幹事長 長井孝司 (70)  
新居浜道前会  
〒792 0016  
新居浜市港町436  
(株)藤田産業内  
0897 37 2816  
幹事長 藤田嘉男 (43)  
西条市役所道前会  
〒793 8061  
西条市明屋敷164  
0897 56 5151(代)  
0897 52 1200  
会長 田中明 (67)  
副会長 佐伯浩一 (72)  
幹事長 高橋行夫 (72)  
監査 元根(三郎) (73)  
秋山隆功 (74)  
定時制道前会  
〒793 8509  
西条市明屋敷234  
西条高校内  
0897 56 2030  
副会長 真木光夫 (55定)  
" 松本守正 (57定)  
" 山崎輝雄 (74定)  
幹事長 大森正清 (60定)

# 盛況だった道前会コーナー

平成23年9月27日開催の西条高校文化祭で、昨年に引き続き、道前会コーナーを開設しました。

道前会本部の活動がわかる様に展示をして、同窓生の寄贈図書のコナーも作りました。

又、東京道前会は、進路や東京方面の生活の相談会や、今年初めて、そば打ち実演・試食コーナーを設けました。

前日からの仕込みや会場準備と大変でしたが、大好評を得て、道前会の活動を在校生の皆さんにもわかっていただけたと思います。

東京道前会と岡山道前会以外の各支部の方々にも今後ご参加していただき、在校生へのアドバイスをお願いします。



## 寄付金芳名録

H23年度

- 三木 秋男(48回)
- 燦々 会(58回)
- 森 達正(70回)
- 道前会市役所支部
- 佐々木逸子(62回)
- 62回普通科卒業生有志一同
- 松本 慶三(59回)

## お悔やみ



近畿道前会前会長の高須賀丈俊氏(52回)が2011年9月5日、逝去されました。

高須賀氏は2度にわたって近畿道前会の会長を歴任し、お亡くなりになる前の6月に開催された総会で後任として私が引き受けしただけでした。

高須賀氏は、つねづね近畿道前会会員のみなさんが世代を超えた交流が深まることを望んでいらっやいました。

高須賀氏のお考え・ご期待に応え、さらに近畿道前会が発展するよう努力をしております。

ご冥福をお祈り申し上げます。

近畿道前会 会長 三浦 東八

## 寄贈図書目録

H23年度

- 石鏡 気宿る山  
著者名 三浦 聖 出版社 三浦聖  
三浦 聖氏(61回)より寄贈
- .....
- 玄人はだしのしろうと写真術  
著者名 大岩俊夫 田村志朗 出版社 凸版印刷(株)  
大岩俊夫氏(50回)より寄贈
- .....
- 続・西条のおまつり  
著者名 吉本 勝 出版社 (有)公文社  
吉本 勝氏(49回)より寄贈
- .....
- 日本男児 長友佑都  
著者名 長友佑都 出版社 (株)ポブラ
- .....
- ドラッカーのマネジメントがマンガで3時間でわかる本  
著者名 津田太愚 マンガ つだゆみ 出版社 明日香出版社
- .....
- 心は強くなる  
著者名 長友りえ 出版社 (株)ワニブックス
- .....
- 嵐を呼ぶ刃  
著者名 菅 靖匡 出版社 (株)学研パブリッシング  
松本慶三氏(59回)より寄贈

## お知らせ

道前会ホームページ

道前会員にとってより親しみのある魅力的なホームページにするために、全面的な見直し作業を行っております。昨年6月にリニューアルしましたので是非、ご覧下さい。

HPアドレス

<http://www.geocities.jp/sajidozen/>

[sajidozen/index.htm](http://www.geocities.jp/sajidozen/index.htm)

道前会メールアドレス

[sajidozen@yahoo.co.jp](mailto:sajidozen@yahoo.co.jp)

行事開催予定欄

なるべく多くの会員に同期会や同級会に御出席いただくため会報に行事予定欄を設けました。開催を予定している行事がありましたら早めに事務局まで御連絡ください。

なお、同期会などの開催のための案

内状などの発送を事務局ではお手伝い致します。お気軽に御相談ください。

50年目の卒業式

会員の皆様が卒業されて50年目には、後輩の卒業式に御出席いただきまして、晴れやかに単立ち行く生徒達の門出を祝していただきたくお願ひしております。西条高校第113回卒業式が平成25年3月1日に挙行される予定です。

この卒業式は63回の卒業生が該当します。是非御出席ください。改めて、案内状を差し上げます。

会費納入方法の変更について

道前会会費は今まで郵便局のみの振り込み方法でしたが、21年度からはコンビニからも振り込めるようになりました。

母校の後輩達のため、更なる道前会活動のため皆様の御協力をよろしくお願ひします。